



春秋花鳥図屏風下絵写(右隻)

特集 黎明館企画展

創設150年記念

玉里島津家資料展

令和3年 12/21[㊤] — 令和4年 3/6[㊤] 会場:黎明館3階 企画展示室

玉里島津家は、幕末薩摩藩の指導者島津久光が、その功績を認められ、明治4(1871)年に新たに興した家で、のちに徳川将軍家・島津本家等に並び公爵に叙せられました。

当館が所蔵する(一部個人蔵)同家の資料は、これまで展覧会で展示されたり、『鹿児島県史料』として翻刻されたりと、様々な形で紹介されてきました。しかし、約2万5千点という資料数に比べれば、まだまだ紹介しきれていません。

玉里島津家創設150年という記念すべき年にあたり、本展では、初公開となる資料を中心に据え、雅やかな美術品・調度品、歴史を語る古文書など、同家資料のもつ魅力を様々な角度から紹介します。

愛らしい動物たちの姿に注目!

頼朝富士牧狩図屏風下絵写(左隻)



担当書イオン資料

御屏風下絵写

文化8(1811)年の第12回朝鮮通信使の返礼品として、幕府から朝鮮国王へ贈られた屏風10双の下絵写です。全12回の通信使を通じて190双の屏風が海を渡りましたが、そのほとんどが失われているため、下絵写とはいえ、本展の目玉ともいえる貴重な資料です。写した人物は未詳ですが、その筆運びは精緻で、幕府が威信を賭けて制作させた屏風の姿が目浮かぶようです。

展示資料約70点
そのほとんどが

初公開



黒漆塗金蒔絵丸十紋櫃

玉里島津家で文書箱として使用されていたものです。『鹿児島県史料 玉里島津家資料』全10巻に収載された古文書の大部分は、これを含め計5点の櫃に収められていました。



形替り文庫

内側に梨子地高蒔絵蘆雁図の装飾を施しています。中に収められたものから、10代藩主島津斉興の手許に置かれたものと考えられます。このうち「勤向扣」は、斉興が江戸城に登城した際の詳細な記録で、嘉永3(1850)年、斉興が將軍から朱衣肩衝という茶入を下賜され、隠居を迫られる場面等が自筆で記されています。



二ノ丸奥日記

文久3(1863)年、慶応2(1866)年、慶応3(1867)年の日記から、「薩英戦争と大奥の女性」、「久光の生母真了院(由良)の逝去」、「随真院(佐土原藩主9代島津忠徹夫人)の鹿児島訪問」をピックアップします。



文化二年春帰国紀行

9代藩主島津斉宣の作で、文化2(1805)年3月22日に江戸を発ち、5月11日に鹿児島へ着くまでの道中見聞記です。69首の和歌も詠まれています。斉宣の歌道への傾倒ぶりや、夜明け前に宿を発つ日が多い等旅の実態がうかがえます。薩摩藩主が残した紀行文は他に例がなく、貴重です。



もり消息

島津久光宛 (明治10(1877)年)

もりは島津久光養女で、佐土原島津家の島津忠亮に嫁ぎました。西南戦争に際し、久光が桜島へ避難したこと、「御殿」が焼失したことを見舞う手紙です。また、嫡男忠愍を出産したことに触れ、「改革」で女中が減り、乳母も置かなくなったため、「私乳にて育て」ているため忙しい旨記しています。大名家の「奥」というシステムが消えゆく様子がうかがえます。



関連イベント

□ 学芸講座「日誌等から見える玉里島津家の家政」
日時:令和4年1月23日(日)13:30~15:00
講師:黎明館主任学芸専門員 新福 大健
会場:黎明館3階 講座室

□ 展示解説
① 1月15日(土)
② 2月5日(土)
③ 3月5日(土)

□ 学芸講座「玉里島津家資料展解説講座」
日時:令和4年1月30日(日)13:30~15:00
講師:黎明館学芸専門員 崎山 健文
会場:黎明館3階 講座室

いずれも
13:30~14:10(40分程度)
※要入館料、事前申込不要

※学芸講座は、いずれも事前申込制です。(詳細は、ホームページまたはチラシをご確認ください。)

※学芸講座終了後、展示解説はありません。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催期間や関連イベントを変更または中止する場合があります。